

復興道路・復興支援道路が2020年度までに全線開通

国土交通省は、8月8日に、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして、国土交通省が中心となって整備を進めている復興道路・復興支援道路の路線全長550kmについて、復興・創生期間内の2020(令和2)年度までに全線開通する見通しとなったと発表した。

また、既に概ねの開通見通しを公表していた区間についても、具体的な開通時期について、併せて発表した。

開通見通し公表済み区間における具体的な開通時期

<①2019(令和元)年内に開通する事業>: 2区間・延長約9km

開通予定	県名	路線	事業名	区間	延長
2019(R1)年度 ⇒2019(R1)年内	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (都南川目道路)	田の沢IC~手代森IC	3km
2019(R1)年度 ⇒2019(R1)年内	福島	115	相馬福島道路 (相馬~相馬西)	相馬IC~相馬山上IC	6km

<②2019(令和元)年度末に開通する事業>: 3区間・延長約12km

2019(R1)年度末	岩手	45	三陸沿岸道路 (久慈北道路)	久慈北IC~(仮称)侍浜IC	8km
2019(R1)年度末	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (宮古~箱石)	宮古市下川井	2km
2019(R1)年度末	宮城	45	三陸沿岸道路 (気仙沼~唐桑南)	気仙沼中央IC ~(仮称)気仙沼港IC	2km

<③2020(令和2)年夏頃までに開通する事業>: 3区間・延長約23km

2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年夏頃まで	岩手	45	三陸沿岸道路 (宮古中央~田老)	宮古中央IC~田老真崎海岸IC	17km
2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年夏頃まで	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (宮古~箱石)	宮古市藤原~宮古中央IC	4km
2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年夏頃まで	福島	115	相馬福島道路 (霊山~福島)	(仮称)国道4号IC~桑折JCT	2km

<④2020(令和2)年内に開通する事業>: 4区間・延長約25km

2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年内	青森 岩手	45	三陸沿岸道路 (侍浜~階上)	(仮称)洋野IC~階上IC	7km
2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年内	岩手	45	三陸沿岸道路 (尾肝要~普代)	(仮称)田野畑北IC ~下閉伊郡普代村第11地割	8km
2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年内	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (区界~築川)	宮古市区界~盛岡市築川	8km
2020(R2)年度 ⇒2020(R2)年内	宮城	45	三陸沿岸道路 (歌津~本吉)	小泉海岸IC~本吉津谷IC	2km

<⑤2020(令和2)年度末に開通する事業>: 9区間・延長約84km

2020(R2)年度末	岩手	45	三陸沿岸道路 (侍浜~階上)	(仮称)侍浜IC ~(仮称)洋野IC	16km
2020(R2)年度末★	岩手	45	三陸沿岸道路 (普代~久慈)	下閉伊郡普代村第16地割 ~久慈IC	25km
2020(R2)年度末★	岩手	45	三陸沿岸道路 (田野畑南~尾肝要)	下閉伊郡田野畑村大芦 ~下閉伊郡田野畑村田野畑	6km
2020(R2)年度末	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (宮古~箱石)	宮古市轟目~宮古市腹帯	7km
2020(R2)年度末	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (宮古~箱石)	宮古市川井~宮古市箱石	7km
2020(R2)年度末★	岩手	106	宮古盛岡横断道路 (平津戸~岩井~松草)	宮古市平津戸~宮古市区界	7km
2020(R2)年度末★	宮城	45	三陸沿岸道路 (気仙沼~唐桑南)	(仮称)気仙沼港IC ~(仮称)唐桑南IC	7km
2020(R2)年度末	福島	115	相馬福島道路 (霊山~福島)	霊山IC ~(仮称)福島保原線IC	7km
2020(R2)年度末★	福島	115	相馬福島道路 (霊山~福島)	(仮称)福島保原線IC ~(仮称)国道4号IC	2km

★: 新たな公表箇所
なお詳細な開通日時等については、別途区間毎に発表予定。

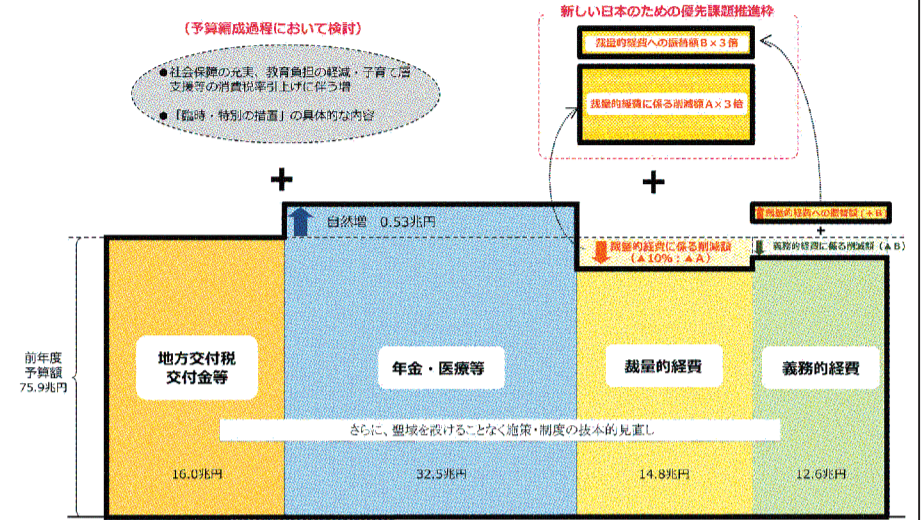
令和2年度予算の概算要求

基本的な方針を閣議了解

政府は、7月31日に「令和2年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」を閣議了解した。令和2年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針2019」を踏まえ、引き続き、「経済財政運営と改革の基本方針2018」で示された「新経済・財政

再生計画」の枠組みの下、手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組みしている。また、歳出全般にわたって、平成25年度予算から前年度当初予算までの安倍内閣の歳出改革の取組を強化することも、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底的に排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するとしている。

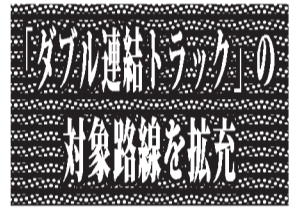
令和2年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について



※ 地方交付税交付金等については「新経済・財政再生計画」との整合性に留意しつつ要求、義務的経費については、国勢調査に必要な経費の増等について加減算。

国土交通省では、1台で通常の大型トラック2台分の輸送が可能な「ダブル連結トラック」の導入を「一生結トラック」の導入を「一生産性革命プロジェクト」に位置づけ、平成31年1月に、特殊車両通行の許可基準を緩和し、新東名を中心とするダブル連結トラックの本格導入をスタートした。

今般、物流事業者のニーズを踏まえ、令和元年8月より、主な通行経路となる区間を東北から九州まで拡充するとしている。



「拡充する路線」
物流事業者のニーズを踏まえて、対象路線について検討

「今後の取組み」
▽高速道路SA・PAでのダブル連結トラック優先駐車スペースを順次整備
▽引き続き、運行状況や物流事業者のニーズを踏まえて、対象路線について検討

「橋梁などの新しい点検技術を公募」
国土交通省では、点検支援技術を活用した効率的な道路施設の定期点検が可能となるよう平成31年2月に定期点検要領を改定するとともに、点検に活用可能な16技術を「点検支援技術性能力カタログ(案)」として整理した。

点検技術者が道路施設の健全性の診断を行う際には、近接目視を基本とした状態の把握が必要ですが、定期点検の更なる合理化を進めるためには近接目視に頼らない点検・診断方法による点検手法のベストミックスが求められている。

そこで、今般、道路施設を構成する部材等において、耐荷力や損傷の進展状況を直接計測し、近接目視を実施せずに健全性の診断が可能となる「計測・モニタリング技術」を公募し、技術検証を実施することとした。

検証を経た技術については、カタログへの掲載を目指すとしている。

【公募期間】
令和元年7月30日(火)~8月30日(金)

【公募内容】
①ニーズ型(ニーズを提示し、技術を公募する)
▽PC上部構造や吊材の状態のモニタリング
▽支承の機能障害のモニタリング
▽橋梁基礎の洗掘のモニタリング

【その他】
点検支援技術に関する窓口※を道路局、地方整備局道路部等に設置し、問合せ・相談等をワンストップ化

※定期点検業務での技術活用、カタログ掲載技術の更新等に対応

詳しい内容・応募様式は国土交通省ホームページで
http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001199.html

令和元年11月7日~11月8日

第33回日本道路会議開催

<http://www.road.or.jp/conference/>

公益社団法人日本道路協会は、主催する「第33回日本道路会議」の参加者を募集している。

日本道路会議は、道路の行政、建設、維持管理、都市計画及び道路交通に取り組んでいる全国の関係者が参加して、道路に関する広範な問題について研究成果を発表し、意見を交換するわが国最大の会議である。

今回は、新たな時代を意識した道路の役割強化と新技術との融合に視点を置いた基調講演を予定している。

【開催概要】
《日程》
令和元年11月7日(木)~11月8日(金)
《会場》
都市センターホテル
東京都千代田区平河町2-4-1
TEL 03-3265-8211
《プログラム》
▽基調講演テーマ「深層学習の進化が与える道路政策へのインパクト」
▽海外事情などの最新情報の提供

▽直面する課題に関する先進事例・最新情報の共有と意見交換
▽先進的な取組・研究成果の論文発表や取組事例の報告等

《主催》
公益社団法人 日本道路協会
《後援》
国土交通省
《申込・参加費》
会議への参加には参加申込が必要。また、日本道路協会の会員・非会員にかかわらず参加できる。
※参加費には資料代が含まれる。

《申込》
日本道路会議ホームページより
《参加申込期限》
令和元年10月18日(金)
《参加費》
①一般) 10,000円(申込期限内・10月18日まで)、15,000円(申込期限後・10月19日以降)(学生) 3,000円
《支払い方法》
会議終了後(11月下旬)に請求書を送付する。
※発表者は、改めて聴講申込をする必要はないが、連名者で会議に参加する方は聴講の申込が必要。

《問い合わせ先》
公益社団法人 日本道路協会
第33回日本道路会議事務局
〒100-8955東京都千代田区霞が関3-3-1
TEL 03-3581-2211
E-mail dourokaigi@road.or.jp
申込・詳細はホームページで。